

事業所の概要表

(2022年 11月 1日現在)

事業所名	グループホーム パートナーハウスすずらん					
法人名	株式会社メディックス					
所在地	愛媛県松山市高井町1296-1					
電話番号	089-955-6866					
FAX番号	089-955-6877					
HPアドレス	http://www.ehime-medix.jp/					
開設年月日	2005 年 8 月 21 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1・2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	ユニット 2	利用定員数	18 人			
利用者人数	17 名 (男性 1 人 女性 16 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	2 名	要介護2	1 名
	要介護3	6 名	要介護4	5 名	要介護5	3 名
職員の勤続年数	1年未満	4 人	1~3年未満	4 人	3~5年未満	4 人
	5~10年未満	5 人	10年以上	2 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 4 人			
	その他 (初任者研修(ヘルパー2級) 7人)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	鷹ノ子病院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 3 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,800 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,310 円	朝食:	280 円	昼食:	490 円
	おやつ:	円	夕食:	540 円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()					
その他の費用	・ 水道光熱費	9,300 円				
	・	6,180 円				
	・	円				
	・	円				

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間					
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間					
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	3 回 ※過去1年間				
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員	<input type="checkbox"/> 評価機関関係者		
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者	<input type="checkbox"/> 近隣の住民		
		<input type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員	<input type="checkbox"/> 家族等		
	<input type="checkbox"/> その他 (職員)					

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和5年2月24日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	15	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	1		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870105180
事業所名	グループホームパートナーハウスすずらん
(ユニット名)	もみじ・かえで
記入者(管理者)	
氏名	宮地 信一郎
自己評価作成日	2022年11月1日

【事業所理念】※事業所記入 当社に関わる全ての人の幸せを常に追求し続けます。 あるがままを笑顔で支える。 家族と共に。仲間と共に。地域と共に。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 今年も新型コロナウイルスの感染拡大・利用者の感染の為、目標達成の為の取り組みが全く足踏み状態です。近隣中学生の職場体験もコロナウイルス感染発生の為中止を余儀なくされ、地域の行事も殆ど中止で地域に溶け込んでいく機会が少なかった(清掃活動には参加)。又利用者対応においては頭を悩ませている状況ですが、ホーム内で実施出来る事(スタッフによる音楽会・おやつ作り・ミニゲーム大会・アニメプレート作成で写真撮影会など)を感染予防に気をつけて慎重に行い、感染状況が減少傾向の時は外出行事(花見ドライブ、松山空港見学その他)も行いました。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 2階建ての和風の落ち着いた建物で、門扉や玄関の格子の引き戸など、和風の造りで周辺環境に馴染んでいる。庭は、桜の木等、季節毎に楽しめる花木を整備している。 新型コロナウイルス感染症まん延の状況をみながら、人の少ない場所を選んで出かけている。4月には赤坂泉に花見に出かけた。5月には県の花きセンター、6月には利用者からの希望で飛行機を見に空港に出かけた。 管理者は、地区のグループホーム交流会の役員となり、地区の他事業所と連携を図りオンライン研修等を開催している。
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	日々の関わりの中で本人の思いを引き出せるように努めているが、十分に把握はできていない。	◎		△	職員が得た情報は、朝の申し送り時等に、口頭で情報共有をしている。さらに、本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録に工夫をしてほしい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族からの話やフェイスシートを確認したり、職員同士で話し合い検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に家族の方等と話し合い、意向に沿えるように努めている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の言動を介護記録や申し送りノートに記入・共有化し、アセスメントに活用している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	毎月のミーティングや日々の業務中に職員間で話し合いを行っているが、意向の把握が困難な利用者の場合職員の主観が入ることもある。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	日々の関わりの中で本人と話したり、面会時に家族から話を聞いている。馴染みの生活ができるよう努めている。				入居時は、日常生活動作について情報収集することが主になっている。生活歴や好みなどは日常会話の中で聞いており、職員はよく知っているが、さらに、可視化して支援に活かす取り組みをすすめてほしい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	業務の中で声掛け・実施し把握に努めている。内容は記録に残して共有し、ケアプランに反映させている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	一日の出来事を記録に残し、毎日の申し送りや申し送りノートなども活用して把握に努めている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のミーティングや日々の職員間の話し合いの中で検討している。面会時に家族の意向も確認している。			△	介護計画作成前のサービス担当者会議は、職員からの情報をもとにして検討している。さらに、本人の視点で検討ができるようにもとなる情報を明確にしてはどうか。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	カンファレンスを実施し、より良い生活ができるようケアプランを作成し、実施している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	職員間の話し合いだけでなく、本人や家族から意向を確認し、カンファレンスを行っている。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々の業務の中で本人や家族と話を行い、ケアプランに反映させている。	○		△	サービス担当者会議時の職員の意見やアイデアをもとにして計画を作成している。さらに、関係者等の意見やアイデアを採り入れた計画作成に工夫を重ねてほしい。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	その人らしさの把握に努め、出来るだけ馴染みの暮らしができるように努めているが十分ではない。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族との連携はできているが、地域との協力は十分にはできていない。地域活動への参加など行ってほしい。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	把握・共有し、実施した内容を記録に残している。			○	ケアプラン実施記録表(モニタリング表)で計画内容を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	実施した内容を記録に残し、次の支援につなげている。介護計画のチェック表を作り活用している。			△	ケアプラン実施記録表(モニタリング表)に、毎日○△×で実践できたかをチェックしている。実践できなかった場合は、理由を書くように欄を設けているが記入はほほほ。また、計画に関する具体的な記録は行っていない。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	◎	定期的にカンファレンスを行い、期間または状態の変化に合わせて見直しを行っている。			○	計画作成担当者が責任を持って期間を管理し、6ヶ月ごとに見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1度のカンファレンスで、スタッフ間で話し合いを行っている			×	ケアプラン実施記録表(モニタリング表)内に、評価欄を設けているが空欄になっている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化に合わせて計画の見直しを行い、新たな計画を作成している。				○	身体状態に変化がみられる場合は、見直しを行うようになっている。この一年では、事例はないようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的カンファレンスを行っている。緊急時には家族や医療関係者も交えての話し合いを行っている。			○	職員会議は、月1回、新型コロナウイルス感染症のまん延状況を見て、全体会、ユニット会、リーダー会の中から選んで実施している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	×	意見交換を行っているが、全員が積極的に意見できているわけではない。発言しやすい環境づくりをしていきたい。				全体会やユニット会時を行う際には、職員が集まりやすい時間帯の19時から一時間程度で行っている。	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	特段の事情がない限り、職員全員が参加できている。				△	全体会やユニット会実施のみ議事録を作成しているが、サインなどするしくみはつくっていないため、正確に共有できているかどうかの確認はできない。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートや介護記録を活用して共有に努めている。			○	○	伝達が必要な内容はすべて連絡ノートに記入して申し送っている。職員は確認後、サインをするしくみをつくっている。
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	×	その日したいことの把握と実施は十分にできていない。一人ひとりの希望の把握に努めたい。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	職員本位の声掛けではなく、利用者が選択できるように声掛けを行っているが十分にはできていない。				△	現在、「希望を言うような利用者は少ない」ようで、利用者が自己決定する機会や場は少ない。職員が個々の好み等を踏まえ決めることが多い。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	食事や入浴など決まった時間の流れはあるが、個別に対応が必要な方は、その方に合わせてペースで対応している。					
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	利用者がその日一日を楽しめるような声掛け・対応を心掛けているが、十分ではない。				○	2階ユニットの職員用トイレには、イラスト入りで「笑顔できていますか」と掲示していた。顔出しパネルをつけて写真を撮るなど、利用者が笑うような場面をつくっている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	状態や表情の観察はこまめに行い、なるべく意向に沿った暮らしができるよう心がけている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であらかじめ丁寧な声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	△	プライバシーに配慮した声掛けを心掛けているが、すべての職員が十分にできているわけではない。	○	○	△	職員は、eラーニングで勉強したり、法人研修会に参加して勉強したりする機会がある。また、研修に参加した職員は、ユニット会で伝達研修を行っている。職員の気になる言葉がけや態度がみられた場合は、管理者が、その都度、個別に注意をしている。さらに、定期的に職員個々で言葉がけや態度について点検するような機会をつくってはどうか。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	配慮に欠ける声掛けをすることがある。					
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室への出入り時の声掛けが不十分なことがある。					職員が自由に利用者の居室に出入りするような場面が見受けられた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報の取り扱いを遵守し、漏洩には気を付けている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	関わりの中で昔の遊びや料理の話など聴き、一緒に行ったりしている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者にあつた出来ることを支援し、支えあうことの大切さを理解し実施している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	関係の把握を行い、職員も間に入りより良い関係が築けるように努めている。利用者に合わせて関係づくりに取り組んでいる。				○	歯磨きを億劫がったり、夜間、就寝への行動がすまなかったりする利用者がいれば、他利用者をお願いして、声をかけてもらったり誘ってもらったりしている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起こらないような関係づくりに努めているが、発生した場合は利用者には負担がかからないよう配慮しながら速やかに対応している。					
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人だけでなく、家族や知人の話、フェイスシートなど活用しながら把握に努めている。					
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	外食で馴染みの場所に出掛けたりしていたが、現在は感染症対策のため出ていない。					
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気のいい日は散歩に出掛けている。		△	○	○	新型コロナウイルス感染症のまん延状況をみながら、人の少ない場所を選んで出かけている。4月には赤坂泉に花見に出かけた。5月には県の花きセンター、6月には利用者からの希望で飛行機を見に空港に出かけた。過ごしやすい季節は、周辺の散歩を支援している。近々、駐車場や庭を整備して、戸外での活動を活発に行っていく計画がある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方の協力を得ての外出支援はできていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日頃の申し送りだけでなく、状態変化があればその都度出勤スタッフ同士で話し合いを行い、対応している。				おやつ作り(ホットケーキ、チョコレートパフェなど)を行ったり、園芸(野菜を育てる)を行ったりする機会をつづけている。洗濯物をたたんだり、もやしや根とりなど野菜の下ごしらを行ったりする場面をつづけている。新型コロナウイルス感染症クラスター発生後、利用者の身体機能の低下がみられたことに伴い、2月から食前に行う口腔体操の折に、体を動かせる体操を探り入れている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日頃の変化に気付けるように関わりを行っており、少しでも現在の状態を維持できるように努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日頃から出来ることを見つけて行っている。一人で出来ることを見極め過剰な介助はしないよう見守りしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	関わりの中で出来ること・出来ないことの把握に努めている。洗濯物たたみや野菜の皮むきなど、利用者の希望や状態を観て動いている。				鯉のエサやりをしたり、草取りをしたりする利用者がいる。夏場には、夜間に火花を飛ばして遊んだ。テレビにインターネットをつないで、時代劇を楽しむことがある。さらに、職員は今後、「利用者の楽しみを増やしていきたい」と話していた。一人ひとりの楽しみや喜びにつながるような取り組みをすすめてほしい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その人らしく楽しんで過ごせるよう、塗り絵やパズルなど馴染みのものを動めている。	○	○	△	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分の好きな服を着たり化粧をされている方もいる。本人や家族から好きな服や色など聴き把握に努めている。				利用者は清潔で季節に合った似合う服装で過ごしていた。訪問美容師に希望を伝えてカット等をしてもらっている。衣類は、本人の好みを踏まえて、家族が持参したり、職員が買い物の代行をしたりしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	○	本人や家族から好みのものを確認している。一人では選べない方もスタッフが候補を挙げ、なるべく選んでもらうようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	スタッフがいくつか候補を挙げ、選んでもらうようにしている。それが難しい方は以前好まれていた服装などを着てもらっている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の時やお客様が面会に来られるときは、それに合わせた服装ができるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなり、口の周囲等)	○	整容や食べこぼしのケアなどはなるべく周囲の方から見えないように声掛けし行っている。			○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	定期的に美容師の方に来ていただき、希望があれば毛染めも行っている。望む店には行けないが、馴染みの化粧品店など家族の方に持ってきて頂いている方もいる。				
g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	希望を言えない方でも、家族の要望を聴いたり、スタッフ間で相談し、その人らしい服装や髪形ができるよう支援している。			○			
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	勉強会で食事の大切さや補食について学んだり理解に努めている。				業者からの献立で食材が届かぬため、季節感を感じるものや利用者にとってなつかしいものなどは少ない。また、生もの(野菜、果物、魚など)は、献立にはない。入居時には湯飲み等を持参してもらっている。その後、壊れた時などは、家族に伝え、個別のものを購入して揃えている。職員は、利用者と同じものを食べるか、弁当を持参するかを比べるようになっている。職員は、利用者の食事介助等をしてから時間をずらして別の場所で食事をしている。台所で職員が調理をする様子が見えて、音やにおいが感じられる。ミキサー食は、おいしそうに見えるように盛り付けを工夫している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに進んでいる。	○	野菜の皮むきやお盆ふきなど出来ることは行ってもらっている。利用者の好き嫌いや把握できている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	野菜の皮むきやお盆ふきなど出来ることは行ってもらっている。おやつ作りをする時は一緒に作り食べてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	本人や家族、フェイスシートの情報によって把握出来ている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえて、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立作りは業者の方に頼んでおり旬の食材やメニューもある。他にも移動スーパーで食べたいものを購入したり、職員がとれたての野菜を持ってこることもある。			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者に合わせて刻みやミキサー食にしている。盛り付けや器も食べやすいように工夫し、刻むときも本人の目の前では刻まないようにしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器類は馴染みのものを持ってきてもらっている。また本人の状態に合わせて食べやすいものに変えることもある。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も同じ食卓で食べ、様子を観察している。なるべく自分で食べられるようその人に合った食器を使用し、介助するときも本人のペースに合わせている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	利用者が入るリビングと隣接した台所で会話などしながら調理している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	その人に合わせた量・形態にしている。食事が十分にとれない方は高カロリー・飲み物やゼリーを補食として出している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	職員や看護師と相談し、食事が十分にとれない方は高カロリー・飲み物やゼリーを補食として出している。一度に多く食べられない方は量を減らして回数を増やしたり味を変えたりと工夫している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	業者に依頼している。利用者が食べにくいものや好まれないものは業者に変更してもらったこともある。			△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具は消毒を行っている。食材も業者から届いた物の検品を行い、適切に保存している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの大切さは理解できている。食事前には口腔体操も行っている。				約半数の利用者が歯科検診を週に1回受けており、歯科医が健康管理を行っている。その他の利用者については、職員が口腔ケアの際に目視している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時など確認を行っている。変化があれば情報も共有できている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に歯科往診があり、利用者にあった口腔ケアを指導してもらっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	自分で磨けるように声掛けを行い、磨き残しがあれば介助することもある。自分で出来ない方は職員が行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	毎食後利用者一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。歯磨き時には口腔内の状態も確認している。一部利用者は1週間に1回の訪問診療を受けている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解できている。おむつの使用や変更は慎重に検討するようにしている。パッド類も利用者に合っているか状態に合わせて検討している。				職員が気になることがあれば、朝の申し送り時に話し合い支援を検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	医師や看護師から説明を受け理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせたタイミングで誘導している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	状態の変化に合わせて、使用するパッド類を検討している。日中はトイレで排泄できるように誘導を心掛け、夜間はよく休めるようにパッドを工夫している。		○	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	申し送りやミーティング時に話し合っている。看護師にも相談している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンを把握し、適切なタイミングで誘導できるように心がけている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人、難しい場合は家族に相談し選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	使い分けは適切にできている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	飲み物を乳製品に変更したり、散歩や食前に体操して排便を促すなど工夫している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴の間隔は職員が決めることが多いが、長さや温度は利用者の好みに合わせている。	◎		○	週2回、午後に入浴を支援している。湯温・長さなどの希望は、その都度聞いている。1階ユニットには、機械浴を整備している。さらに、「入浴を楽しむ」という観点から、利用者の入浴の習慣や希望についての情報を支援に採り入れてはどうか。
		b	一人ひとりが、つろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	入浴は本人のペースで出来るようにしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自身で洗えるところは洗ってもらい、出来ないところだけ介助している。浴槽への出入りも自分で出来るよう踏み台を置くなど工夫している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	△	無理強いしての入浴はしていないが、入浴を拒み何日も入浴できていない人が気持ちよく入浴できるような工夫は十分でない。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタル測定だけでなく、表情や状態なども確認し、職員間で相談しながら入浴を行っている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠パターンの把握はできている。				現在は、約半数の利用者が入眠導入剤を使用している。薬剤を使用する人については、主治医に生活の状況を報告して相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	不安を取り除けるような声掛けや、日中の活動を増やすなど工夫はしているが十分な効果が出ないこともある。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	声掛けや日中の活動など工夫しているが、薬剤を使用する場合もある。その時は職員間で検討し、医師・看護師に相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	日中も休息がとれるように様子を観て声掛けをしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	本人の希望があるときだけでなく、職員から声掛けて家族への電話を促すこともある。職員と一緒に手紙を書いて送ることもある。					
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙が書けない方は職員と一緒に、本人が書いた手紙と一緒に職員からの手紙も添えている。電話での会話が難しい方も家族の声が聴けるように支援している。					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	本人や家族からの希望があるとき以外にも、職員から電話の声掛けをすることも十分にはできていない。					
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙は本人と確認し返信しているが、すぐに返事を出せていないこともある。					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族にも協力をお願いしており、定期的に電話をされている方もいる。					
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	十分に理解できている。					
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	施設に移動スーパーが来るときは、利用者に商品を選んでもらい、買い物先からも理解・協力を得られている。					
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金は施設の金庫にて保管しているが、使用は本人や家族の希望に添えるようにしている。					
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合いはできている。希望があればその都度話し合いを行っている。					
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	明確なルールの元管理し、家族の同意も得ている。お00					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来るだけ希望に添えられるように取り組んでいる。	◎		○	家族からの依頼で専門医(整形や皮膚科等)の受診を職員が付き添うケースがある。利用者の下着等の買い物を職員が代行するケースがある。	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関前に花壇やベンチを置いたり、訪問しやすい環境づくりに努めている。	◎	◎	◎	2階建ての和風の落ち着いた建物で、門扉や玄関の格子の引き戸など、和風の造りで周辺環境に馴染んでいる。庭は、桜の木等、季節毎に楽しめる花木を整備している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気になるように、備品や飾りつけなど工夫している。落ち着いた色合いのソファやテーブルなど設置している。	◎	○	○	玄関、ユニット入り口の引き戸はガラス戸になっている。1階には濡れ縁がめぐらされている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は十分に行い、汚染物なども特定の場所で管理している。調光は柔らかい光になるようにしている。			◎	月～金曜日まで掃除スタッフとして障がい者を雇用しており、事業所内の掃除を担当している。室内は掃除が行き届き、気になるような臭いや音は感じなかった。窓からの自然光を採り入れていた。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた掲示を行い、穏やかに過ごせるように、備品やテーブルの配置を工夫している。				○	周囲は田んぼで風の通りがよく、夕日が沈んでいくのが見える。2階の居間には、梅の壁画作品を飾っていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と席隣になって話したり、いつでも居室に戻り、自分の落ち着いた場所で過ごせるようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室には馴染みのものや写真など飾り、その人らしく穏やかに過ごせるように工夫している。	◎		△	タンスを置いていたり、写真を飾っていたりしたが、利用者は一日の大半を居間で過ごすようだ。居室環境については、個々が居心地よく過ごせるような空間になっているかを点検してはどうか。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室やトイレに分かるように名前を掲示したり、飾り付けをしている。				○	居室の入り口には、個々に、名前と小花をつけたボードを掛けている。入室が分かりにくいような場合は、名前を大きく表示することもあるようだ。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	日常生活の場に置かれているが、職員が促してから使用することが多い。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられられない状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	理解しているが、必要があれば日中ホールへの出入り口は施錠していることがある。	◎	◎	△	日中、玄関は施錠していないが、両ユニットともに、ユニット入り口の引き戸は施錠している。この一年間、鍵をかけることの弊害について学ぶような機会は持っていない。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族の方にも理解していただいている。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	申し送りノートや介護記録、個人の基本情報など活用し把握に努めている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	変化にすぐに気付けるよう、日頃の関わりを大切に、共有できるよう記録に残している。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護職やかかりつけ医にいつでも相談できる関係が築けている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人・家族の希望を把握し、希望・必要があれば速やかに受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望を大切に、適切な医療が受けれるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	話し合いを行い実施している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	適切な情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	電話連絡だけでなく、定期的に面会を行い情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	細かなことでも気づいたことは看護師やかかりつけ医に相談している。				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも連絡でき、対応してくれるよう体制ができています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	早期発見し、適切な治療ができるよう、日頃の状態観察や医療機関との連携を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	申し送りや看護師からの説明を受け、理解できるよう努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	配薬時と服薬前に複数の職員で確認を行い、服薬時に利用者本人にも確認してもらっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	変化に気付けるよう、看護師を含め職員が毎日確認を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に応じて本人や家族と話し合いを行い、意向を確認している。				入居時、説明を行い、その後は、状態変化時に、本人、家族、かかりつけ医、看護師、職員で話し合いの場を持ち、方針を共有している。 新型コロナウイルス感染症対策期間中で面会が難しい時期の看取り支援では、家族に防護服を着てもらい、居室で過ごせるよう支援した。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	入居時の確認だけでなく、状態の変化に応じて本人・家族、職員、看護師、医療機関と話し合い方針を共有している。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者は現場の職員・看護師の意見も聞きながら、適切な対応を行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居の際にホーム長が説明し、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	関係機関と連携を取りながら、チームで支援する体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の方に話を聴き、一緒に過ごす時間を尊重したり、不安が少なく過ごせるように配慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	各ユニット毎で勉強会を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会を行い、対応できる体制を整えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	介護事業部本部より感染症情報が送られるので、確認できるよう回覧で回している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いやうがい、マスクの着用など徹底しており、来訪者にも手指の消毒を含め清潔が保持できるように支援している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の方の話も聴きながら、ホームでの様子も伝え、ともに支えていく関係が作れるように努めている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 月1回、利用者個々の担当職員と看護師資格を有する職員がすずらん便りに利用者の状況と健康状態を記入して家族に送付している。 面会が思うようにできない現状があり、家族が利用者と電話で話せるようにコードレス電話を購入した。さらに、家族アンケートの詳細をみると、事業所のケアや取り組みを知らない人と答えている人が複数いることが分かる。家族が知りたい情報を発信できるような報告の工夫を重ねてほしい。 家族来訪時には、事業所にブログがあることを口頭で紹介している。 すずらん便りに、行事や設備改修や機器の導入、職員の入職等の情報を日付とともに載せている。 運営推進会議の報告書は送付していない。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	面会禁止継続中、感染減少傾向の時は玄関での面会を実施。	△		評価困難		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月「すずらん便り」を送付し、一か月の様子や健康状態など伝えている。	○		△		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症は進行していくものなので、家族の方に状態を伝え、お互いが良い関係を継続していけるよう支援に努めている。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月「すずらん便り」にて報告し、理解を促している。			△		○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時や状態変化時など家族の方にリスクについて説明し、話し合っている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族の方が話をしやすい雰囲気づくりに努めている。状態変化時など電話での連絡もしている。コードレス電話機を使用して家族様とのコミュニケーションを取っている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	その都度文章にて説明し、理解・納得をいただいている。必要があれば同意書も書いていただいている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	十分に説明を行ったうえで、退去先に納得して移れるように支援している。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	機会を設けていない			○	管理者は、春と秋に地域の清掃活動に参加している。また、回覧板を次の家に回している。 この一年間は、利用者が地域の人とかかわるような機会はなかった。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の活動もほとんど中止。清掃活動には職員が参加。			◎		△
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	支援して下さる方が増えるよう努力をしていきたい。近所の散歩時に当方から声掛けしている。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	行事の参加はあるが、日常的にもっと気軽に立ち寄れるような工夫をしていきたい。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時に出会った方には挨拶している。回覧板のやり取りはあるが、日常的に付き合いができる関係を築きたい。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	利用者の生活が広がりを持てるように働きかけていきたい。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を深げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地区のグループホーム交流会が三か月に一度開かれており参加している(一部リモート参加)。包括支援センター主催の「俳句勉強会」に参加。					
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	運営推進会議を開催していない			△	△	報告書をメンバー(自治会長、民生委員、松山市、地域包括支援センター)に送付することに止まっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	運営推進会議を開催していない。活動記録を2ヶ月に1回、松山市役所、包括支援センター、町内会長、民生委員に郵送で報告している。			○	△	利用者や活動状況を載せた報告書をメンバーに送付することに止まっている。 サービス評価についての報告は行っていない。 さらに、書面会議を行う際にも意見や提案を出してもらえるよう会議に工夫してほしい。
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	運営推進会議を開催していない				回答なし	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員それぞれが理念を把握し、実践できるように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は施設内の玄関やホールの掲示板に掲げている。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の能力や課題に合った法人内外の勉強会に参加し、ミーティング等で報告している。				一時間の休憩を取ることをすすめており、休憩室(ソファや冷蔵庫を完備)を準備している。有給休暇、希望休みを取りやすいようにしている。旅行や県外に出かける職員には、新型コロナウイルス感染症検査キットを無料配布している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	会社全体で職員のスキルアップに取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	働きやすい環境づくりに取り組んでくれている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	勉強会などを通じて同業者と交流する機会を作ってくれている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	忘年会やボーリング大会の開催など、代表者も交えて職員同士の交流の場を作ってくれている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	ミーティングなどで勉強・話し合う機会を設けている。WEB研修も行っている。			○	法人研修などで不適切なケア等について勉強をしている。3か月に1回、身体拘束や虐待防止の委員会を行っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月のミーティングだけでなく、日々の業務中でも話し合っている				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の言動を注意している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	ミーティング時に勉強会など行い理解に努めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティング時だけでなく、日頃の業務中にも拘束などないように話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族の方と話し合いを行い、ケアに取り組んでいる。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	理解できるよう努めているが、すべての職員が十分に理解できてはいない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要ならば連携をとることができる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成して緊急時に備えている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会などに参加し、緊急時対応について学んでいる。ミーティング時にも勉強会で学んだことを報告・訓練している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ミーティング時に事故報告書・ヒヤリハットを報告し、職員全員で共有して再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングや日々の業務の中で話し合い、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	対応方法について検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	適宜対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	前向きな話し合いができるように対応している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	日々の業務の中で個別に確認している。意見を言いやすい関係づくりを行っている。	○		○	利用者には、外出する際の行き先の希望を聞いている。家族には、面会時にソファアに掛けるカバーの色などを相談したりしている。	
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	必要があれば対応できるようになっている。					
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	現場の意見を聴く機会を作っている。					
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月のミーティングで意見を聴いたり、年2回の個別面談を行っている。			○	年2回、管理者による面談の機会がある。管理者は気になることがあれば、その都度、職員と話をしている。	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。					
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標を達成できるように取り組んでいる。					
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	×	運営推進会議で報告しているが、モニターしてもらったの取り組みはできていない。	△	○	×	サービス評価についての報告は行っていない。	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員が参加するミーティングや運営推進会議にて成果を確認している。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	各災害についてのマニュアルを作成し、回覧・ホール内に掲示して周知している。					
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年二回訓練を実施している。					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	各事業所にて備品の保管、消火設備などの点検を行っている。					
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議にて、地域の方や消防署の方に参加してもらい合同訓練を行っている。	△	△	×	この一年間では、令和4年12月に自主避難訓練を行った。地域との協力・支援体制を確保するような取り組みは行っていない。	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	今後地域のネットワークづくりに参加していきたい。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	情報発信や啓発活動など十分に行えていない。今後取り組んでいきたい。					
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行えていないので、今後支援に取り組んでいきたい。		△	×	特に取り組んでいない。	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用はできていない。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	今後協力していきたい。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	近隣の中学生の職場体験を受け入れ、利用者とは交流している。			△	管理者は、地区のグループホーム交流会の役員となり、地区の他事業所と連携を図りオンライン研修等を開催している。	